

信州大学 FDショートセミナー シラバスの書き方

1/17/2012

加藤善子(高等教育研究センター)

1

ようこそ

- お忙しい中、ご出席いただき有難うございます。
- 学生の「学び」を引き出すシラバスの構造を考えていきます。
 - 前半部はシラバスが含む項目について
 - 後半部は評価構造について

2

このショートセミナーの目的

- 「教授から学習へ」という変化に対応するシラバスの基本的考え方を知る
- 学生が主体的な学習者として、「成績に納得し、責任を持つ」評価構造を考える
- 参加者のグッドプラクティスを共有する
- 来年度のシラバスを、学生の学習を促すものにする

3

「教授」から「学習」へ

- 「ティーチング」が主だった時代のシラバス
 - 教員のやることばかりが書かれている
 - 教員のみを縛り、学生には義務がない
 - 学生は教員を批判する消費者であった
- 「ラーニング」が主になる時代のシラバス
 - シラバスは教員と学生の「契約」
 - 教員も縛るが学生も縛る
 - 学生は、自分の努力と成果の「結果」として成績を受けとる

4

シラバスをつくる意義

- 学生と教員双方が、授業の展開に責任を持つ意識を高める(シラバスは「契約」)
- 学生が、自分は現在授業のどこにいて、どこに向かっているのかを知ることができ、安心感をもつことができる
- 学生の教室外での学習ガイドとして機能する
- 課題や締切をそのつど周知する手間を省く

5

シラバスをつくる意義

- シラバスを書く行為を通して、教員が授業のプランをより具体的なものにすることができる。つまり、学生と自分の時間的制約、教材の制約などの観点から、授業において何を捨て、何を残すか、授業において本質的なものはなにかを考えることを教員に促す

(池田・戸田山ほか2001, p.60)

6

盛り込む内容:授業内容にかかわる情報

- 授業の目標
- 授業で扱うトピック

「基本的な目的は、学生に何の授業かを教員自身のティーチング・フィロソフィ(授業哲学)に基づいて書かれているものでなくてはならない。(中略)たとえば、「この授業をどうして教えるのですか?」(中略)「学生に何を学んでほしいのですか? 何のためですか?」「授業では、学生が何を身につけたといえますか?」などを自問自答しながら、授業シラバスを作成する必要がある」
(土持2007, pp.34-5)

7

盛り込む内容:授業内容にかかわる情報

- 授業の目標 →DPとの関係・達成目標
- 授業で扱うトピック

「基本的な目的は、学生に何の授業かを教員自身のティーチング・フィロソフィ(授業哲学)に基づいて書かれているものでなくてはならない。(中略)たとえば、「この授業をどうして教えるのですか?」(中略)「学生に何を学んでほしいのですか? **何のため**ですか?」「授業では、**学生が何を身につけた**といえますか?」などを自問自答しながら、授業シラバスを作成する必要がある」
(土持2007, pp.34-5)

8

盛り込む内容:教師にかかわる情報

- 名前・研究室番号・内線電話番号・メールアドレス
- オフィスアワー
- TAを使う場合は、TAの名前、連絡先

9

盛り込む内容:
授業のスケジュールにかかわる情報

- 各回で扱う内容
- 各回までに読んでくる本の箇所や宿題の指定
- 課題とその提出期限(提出方法・提出先)
- 授業外活動(見学・ビデオ上映)のスケジュール
- * 予定の変更を可能にする書き方しておくのが安全
- * 各回の日付や休講日、教室変更の情報なども付記する

10

盛り込む内容:受講生にかかわる情報

- 受講に必要な知識・スキル
- 受講資格

11

盛り込む内容:評価にかかわる情報

- 評価の基準
- 評価の方法
- 試験のやり方や期日

- * 評価の基準には、「秀」「優」「良」「可」「不可」の水準の説明を含む。
- * 評価の方法には、達成度の測定の仕方と、最終成績の算出の仕方を含む。

12

「水準」の提示例

• 「優」の水準

- 優を取る学生は、休まず、遅刻早退をせず出席し、主体的に授業に参加する。意味のある発言を積極的にするなど、クラス全体の学びに貢献する。レポートの作成には時間の余裕をもって着手し周到に準備をする。内容は深く考えられており完成度が高い。課題で求められていることよりも更に発展がみられ、新しい知見が出されている。

13

「水準」の提示例

• 「可」の水準

- 可を取る学生は、数回の欠席や遅刻があり、出席しているものの時々居眠りをすることがある。求められたときにのみ発言をするなど、どちらかというと受身の姿勢で授業を受けている。レポートは遅れず提出する。授業で触れられた情報や内容にひと通り言及し、無難にまとめている。発展や新しい知見はみられない。テーマから外れたり、論旨が一貫しないことがある。

14

盛り込む内容:教材にかかわる情報

- 教科書とその入手方法
- その他の補助教材(コースパケットなど)と、その入手方法
- 参考図書(図書館での所在)
- 参考になるホームページのアドレスなど

* 教科書を指定する場合、必ず授業で使うことをシラバスで明記する。予習や復習に必要な範囲をスケジュール上に記入するのがベスト。

15

盛り込む情報: 受講のルールにかかわる情報

- 資料配布のルール
- 課題提出のルール

(以上、池田・戸田山ほか2007, pp.61-63)

- * 課題提出が遅れた場合の扱いや、救済措置としてのおまけ課題などがある場合は(ない場合も同様)それを点数と共に明記しておく。
- * 欠席の扱い、遅刻の扱いなども明記する
- * 授業中の飲食や私語、携帯電話などの扱いについても、必要だと思われる場合は明記する

16

ワーク

- ご自分のシラバスをみて、このチェックリストと照らし合わせてみます。ここを変えてみようかな、と思うところを一つ選び、チェックリストに基づいて、改善案を出してください。(個人5分 → グループ10分)

17

発表(全学教育機構)

- 学生を主語にして達成目標を書く
- 内容を具体的に
- 遅刻の扱い方
- リレー式の授業は難しい
 - 事前にコーディネートが必要

18

発表(教育学部)

- 予定の変更に対応できるように
- 日付を入れる
- 授業の一回目に周知(変更点を含め、詳しいバージョンを)

19

発表(工学部)

- 予習をしてほしい
 - シラバスに文章で予習を指示する
- 「契約」の面を意識して
 - 遅刻・課題の提出などの約束事
- トピックを明確にすることは、自分のためにもなる
 - カリキュラムやポイントを考え直すことになってよい

20

発表(繊維学部)

- JABEEに則ったシラバスになっているので、ある程度カバーできている
- 授業の目標
 - DPや達成目標を意識して・専門科目との関連

21

発表(農学部)

- 学生の意欲をたかめるもの
 - 「何のために」を明記する
- 態度など
 - 教員がはっきり見ていることを知らせる
 - ⇒学生の意欲も高まるのでは？
- 授業の状況をみて変更することを含めて

22

学習者中心の成績評価

- 学生が、自分の努力量や学習の方向が適切かどうか途中で確かめられるようになっている
- 学生が、自分の行動を修正できるようになっており、その結果合格できるようになっている
- 学生が、自分の行動を修正し、学習と成績を管理する能力をつける指導が用意されている

23

成績の透明性

＝学生が、学期中のどの時点でも、自分の大体の成績を把握している
 ＝自分で自分の成績を管理できるように、成績評価の方法が明示されていること(全体および課題共)
 ＝学生が自分自身の努力と成果の結果として、成績を理解できていること

⇒学生はシラバスのスケジュールに従って学習し、その評価を受けていく
 ＝学習者中心の成績評価のしくみの確立

24

成績評価

- ある授業での「評価の方法」には、出席30%; 中間試験30%; 期末試験40%と記されています。
- この授業でAさんは、2回欠席し、1回遅刻(20分)、1回早退(5分)しました。中間試験は60点、期末試験は50点でした。Aさんは、単位認定されるでしょうか。

25

ここで

- 松本キャンパスでは、出席の計算をこのようにします: 15回出席で100%の出席点, 10回出席で67%の出席点を計上します。
- それ以外のキャンパスでは、出席の計算をこのようにします: 15回出席で100%の出席点を計上しますが、10回出席では0%として計上します(=1回欠席すると出席点の20%を失う)。

26

こたえ

- 出席回数を反映させた計算法の場合:
 $86.6(\text{出席}) \times 0.3 + 60(\text{中間}) \times 0.3 + 50(\text{期末}) \times 0.4 = 26.0 + 18 + 20 = 64$
- 欠席回数のみを反映させる計算法の場合:
 $60(\text{出席}) \times 0.3 + 60(\text{中間}) \times 0.3 + 50(\text{期末}) \times 0.4 = 20 + 18 + 20 = 58$

* 問題は、どのように点数が計算されるのか、学生が知らないこと=学生は成績に責任を持つことができない

27

改善方法

<シラバス上の改善>

- それぞれの領域において、学生が自分で計算できる方法を明記する

<授業実践における改善>

- 試験やレポートをフィードバックする
- 8週目くらいで成績の見通しを知らせる

28

たとえば素点での成績評価

- ある授業では、出席1回2点(2×15回=30点; 20分までの遅刻・早退は1点、20分以上の遅刻・早退は欠席扱い); 中間試験30点分; 期末試験40点分で成績をつけると示されています。

* この方法であれば、少なくとも学生が自分で計算をすることができる

29

学生の学習意欲や参加

- 「学生にとって興味のある方法や内容」が、学生の参加と努力を引き出すわけではない
- 教員の工夫や努力が学生の意欲を高めたり自主学習を促すわけでもない
- 学生は何が評価され、何が無事に見過ごされるのかを常に観察している
- 授業を真剣に聞く行為が報われなければ、大多数の学生が真剣に学習に身を入れることはない

(Gibbs, 2006)

30

評価の新しい考え方

- 重要性を理解してほしいことに点数を配分する
- よい成績を修めるために、必要かつ望ましい行動を抽出し、それらに点数を配分する

⇒なぜなら、学生は、評価(evaluate)されないことに対して自分の力と時間を投資することはない(Gibbs, 2006)

⇒しかし同時に、学生は自分が出来ているのか出来ていないのかを自分では判断できない(だから評価=assessmentが必要; 個人指導も!)

31

大学での授業の常識?

- 先生の授業を受ける学生が当然知っていて、かつ学期中に行動しなければならないこと(=**学生の義務**)の**リスト**をつくります。あまりに当然で言語化するの**も**ばかばかしいことも書いて下さい。

- これらを行動レベルで考えると...?

32

ワーク

- 先ほどのリストを参考にして、授業の成績評価体系を考えましょう。
 - この授業で目的とされているものを確認し、それができていれば評価に反映されるように。
 - 出席点(遅刻・早退の扱いを含め)
 - 課題の種類とタイミング なぜ?
 - 宿題の評価?
 - どこでどうやって学生が修正できるようにする?

33

発表(全学教育機構)

- 前回の復習をしない学生
 - 復習を最初にやる、スケジュールをシラバスに書く
- 必要条件と十分条件を混同する学生がいる
 - 自己管理できるようなチェックリストを作る必要

34

発表(繊維学部)

- 予習復習
 - 専門用語は小テストで(マークシート・eAlpsで自動採点)
- 必要最小限の知識
 - 何割かを割いて・「100点満点でないと追試」

35

発表(農学部)

- レポートの評価とフィードバックをする(教員の負担増が問題)

36

発表(教育学部)

- 手を挙げて発表したら加点(少人数なら可能)
- 期末8割 → 期末で100取ったらそれなりに
- とれなければ 課題点でかなり評価ができるように 課題点の提出数などの最低回数などを明記した上で

37

発表(工学部)

- 学生の評価のポイントを明らかにする
- 期末試験だけでなく、日々の努力(ノート・予習復習)を点数化する方法を模索

38

ありがとうございました！

- アンケートにご協力ください。
- お問い合わせは、campus-fd@shinshu-u.ac.jp
あるいは katoy@shinshu-u.ac.jp

39

References

- Gibbs, G., How Assessment Frames Student Learning, Bryan, C. and Legg, C.(Ed), *Innovative Assessment in Higher Education*, New York, 2006.
- 池田・戸田山・近田・中井『成長するティップス先生』玉川大学出版部, 2007.
- 土持ゲーリー法ー『ティーチング・ポートフォリオ 授業改善の秘訣』党信堂, 2007.

40